

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2791400258		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ箕面Ⅱ		
所在地	大阪府箕面市桜4-9-13		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

必要な時に必要なサポートを誰もが受けられる。お互いを尊重して働き、自分の可能性に挑戦していける。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東証グロース市場の株式会社リビングプラットフォームケア(法人)が、2017年箕面市でNPO法人から事業譲渡された2つの事業所を2020年に現在地に移転、新築した2階建ての1・2階を2事業所(ライブラリ箕面Ⅰ・Ⅱで、それぞれ2ユニット)とした。法人は、北海道・東北・関東を中心に介護・障がい者・保育施設を127か所を運営し(関西3か所)、さらに現在も拡大中である。当事業所では、事業譲渡とコロナ禍の中で、施設長や管理者の相次ぐ交代と職員の退職が集中したため、新任の施設長兼管理者が古参職員と協働しながら、2事業所4ユニットの運営に鋭意取り組んでいる。利用者は、閑静な住宅街での新事業所のゆとりのある共用空間や居室で職員等の献身的な寄り添いにより快適な暮らしを継続できているが、かつての盛んであった地域交流を、早期に取り戻すための取組みを期待したい。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示いつでも職員の目の届くところに置いている。	法人は、理念として「安心を育て、挑戦を創る。」(未来に繋げる安心と挑戦のループ)を掲げ、事業所においても施設長・管理者の名刺裏面に法人理念と企業ロゴ(大地にまいた一粒の種がやがて大樹に育つ)が描かれている。全職員が企業理念を共有し、利用者への介護に活かすことに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ中の移転のため全く地域のつながりがないため、今後地域との交流をしていきたい。	かつての事業所で盛んであった地域交流を、早期に取り戻すことを現在模索中である。具体的には、自治会関係者や民生委員等地域住民を取り込んだ運営推進会議の開催(現在は書面開催)や防災活動(訓練)を地域住民とともにを行うことを今後検討して行くことを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ中の移転のため全く地域のつながりがないため、今後地域の人に向けて活かしていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが治まりかけ実施予定がスタッフのコロナ感染、利用者様、スタッフのインフルエンザとなかなか実施できていない。	新事業所に移転前から始まっていたコロナ禍から現在に至るまで、運営推進会議は全て書面で開催してきた。2024年3月には参加者が一堂に会しての会議開催を予定している。なお、書面会議においても議事録には事業所の報告事項につき必須事項の記載が必要となる。	対面での会議には、地域住民(自治会長や民生委員等)・地域包括支援センター・他事業所・家族等の関係者が参加し、事業所報告に対する評価や意見・要望等が出ることを期待したい。議事録は、関係者や全家族に配付し、玄関にも設置し公表することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	箕面市広域福祉課と連携をとり、情報交換に努めている。	市の広域福祉課への申請・報告のほか、事業所運営の不明点につき都度相談しアドバイスを得ている。生活保護受給者についても市窓口との往来がある。コロナ感染対策や対応について、保健所からの連絡・検査や資材の提供等応援もあった。また、市のグループホーム連絡会(6事業所)に参加し、有益な情報を入手している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的に行わないことで統一されている。	身体拘束廃止（適正化）指針を整備し、年4回の委員会開催と年2回の職員研修（動画研修等）を実施し、議事録と報告書をそれぞれファイルしている。現在は、拘束事例はない。夜間に、人感センサー類を必要に応じ各居室で使用し、家族等の同意も得ている。ユニット出口は利用者安全のためロックしているが、職員同行で外部に出られ閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	展示物やミーティングなどで虐待に関する意識を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様各人の経済状況や支援状況を把握し、包括支援センターや福祉事務所と話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明するとともに不明点や質問に対して適宜対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を放置せずできるだけ現場と協力し反映させるよう努めている。	家族等とは、電話連絡時または面会時等に意見や要望を聴取している。調査機関のアンケートには、利用者の様子の電話問い合わせには何事も包み隠さず具体的に聞かせてもらえるとか、急に面会に訪れても快く迎えてくれるとの回答が見られ満足度は高いが、運営に関する家族等の要望や意見は事業所にもアンケート回答にも特段見られない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日頃のコミュニケーションの中で情報収集を行うようにしている。	施設長(兼管理者)は、2事業所4ユニットの管理運営に専念し、全体会議議事録等で内容を把握し、必要に応じリーダーから話を聞いたり、職員と面談しているが、職員も日常の介護やレクリエーション・イベント開催に手が一杯で、運営に関する意見等はあまり出ない。調査員とのヒアリングでは、管理者に法人との橋渡しを期待する声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り職員個々の努力、勤務状況を把握し頑張りに応えるべく努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みに答え、場合によっては面談を行いアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕面市グループホーム連絡会でお互い話し合い、情報交換している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ち、習慣を探りながら、安心確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望や意向については極力耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しく過ごして頂くために様々な方法を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のニーズ、訴えを聴くにあたり、相手の状況や思いを胸に共感しあえる関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族様の気持ち、状況を考慮し、意見を聞いて対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や知り合いの面会は家族様に確認した上で推奨している。	家族は、現在2人30分という制限があるものの利用者の居室での面会が可能となっている。また、家族同行で馴染みの喫茶店・美容室や公園に出かけたり、買い物・外食を楽しんでいる。また、馴染みの親族や知人等が訪れても、利用者が訪問者を認識出来ない場合も多々あり、再び訪れることも少ないのが現状といえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどでお互いを結びつけるコミュニケーションづくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の求めに応じ、相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介助や誘導には必ずご本人に確認するところからはじめている。	利用者は、老健や在宅から入居するケース多く、従来のケアマネジャーの話や情報を参考にし、時には管理者や計画作成担当が自宅に出向き、本人や家族から思いや意向を聞き生活歴の把握に努める場合もある。入居後は、職員が寄り添いより深く利用者の思いや暮らし方の意向を聞き、利用者本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを尊重したケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	立位、歩行、食事などのADLや、昼夜逆転など適宜対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ケアプランは必ず家族様に確認頂き意見を求めている。	計画作成担当者が中心になり、利用者・家族、管理者・職員・看護師や医療関係者等の意見やアイデアを反映させ、毎月の全体会議におけるカンファレンスやモニタリングを参考に、6か月ごとに介護計画書を見直し、家族に説明のうえ同意を取り付けている。介護計画について家族が概ね満足していることが窺われた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に基づいたモニタリングを行い、今後のケア実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方々の状況に合わせた新たな試みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	箕面市グループホーム連絡会での意見交換や他事業所との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様主体でその方に合った診療医の選択を行うようにしている。	入居時に相談の上、利用者・家族の意向でかかりつけ医を決めている。協力医療機関以外のかかりつけ医も含めて内科は全て月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関は24時間対応で連携している。歯科は歯科衛生士同伴で月2回の訪問診療がある。看護師は職員として勤務し、週2回健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な内容はまず看護師に報告、相談し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時の情報収集、退院カンファレンス参加などを基本的におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を実地しており、医師、看護師、介護員協力のもと、方針に従って行っている。	入居時に終末期に関する説明を行う。その後重度化した場合、医師の説明を受けて家族と相談し、その後の支援の方針を決定する。その際「施設での看取りについての説明同意書」に署名を得ている。看取りとなった場合は、医師・看護師・職員が力を合わせて支援を尽くしている。昨年も複数の看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頭での場面想定による指示指導を行い、緊急時に対応できるように教育している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練によりシュミレーションし、避難口、消化器の位置、避難経路について各自把握している。	避難訓練を昨12月に実施する予定で準備していたが、管理者の突然の退職があり実施できなかった。新たに着任した管理者は、今年度内に避難訓練を実施する心づもりをしている。非常災害用として水・白飯・副菜(レトルト)を7日分備蓄している。災害時等の業務継続にむけての計画は最終策定中である。	突発する災害に対して、避難訓練の重要性は言うまでもない。年2回(うち1回は夜間想定)の避難訓練を実施されるよう望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員お互いが気付いた点を意見できる風土をこころがけ、各自が努めている。	利用者との親密さが度を越し、馴れ馴れしく礼を失した言葉遣いになることや、強い語調で抑止するなど、職員の不適切な態度を相互に注意喚起できるよう努めている。接遇等の研修も行っている。重度の利用者が多く、センサーも利用して転倒を防止している。個人書類は事務所の鍵付きロッカーに格納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位を念頭に、声掛けからしていくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調面には特に注意し、場合によっては臥床を促す。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場に応じた対応を心がけ、利用者様の意見を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方のレベルに合わせて盛り付け・配膳・下膳・洗い物・準備などをしてもらっている。	業者の配達する食材を湯煎するなど温めて食事を供している。月に1回季節を味わう献立を楽しむ。ソフト食は職員がミキサーで加工し、食事の全介助が必要な利用者(2名)には食事にゆっくり時間をかけている。参加可能な利用者は盛り付けなどを行っている。クリスマスには、おやつにクリスマスケーキを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行いながら栄養摂取には留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ナイトケア時には特に苔磨きを含め、歯ブラシの選択も行いながら、ご本人に合わせた口腔ケアを実地している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンと本人の尿意、訴えに対応している。	意思表示ができない利用者も表情などで尿意を察知している。利用者の半数がおむつを使用しており、居室でおむつ交換してから食事に臨んでいる。パッド併用でリハビリパンツを使用する利用者はトイレに誘導している。夜間は2-3時間毎に巡回し、自立歩行できる利用者はトイレ誘導し、その他はおむつなどの交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤のみに頼らず、毎日の体操やヨーグルト、牛乳など消化を促すものを試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スケジュールは決めるが、ご本人の意思を尊重し、延期や清拭などで臨機応変に行っている。	週2回午後に入浴している。入浴を拒否する利用者には、別の話題でしゃべりながら浴室へ誘導し入浴を実現している。介助は職員が1:1で行い見守っている。浴槽を跨げない利用者は、座面が機械移動できる椅子を使い椅子に座ったまま浴槽につかることができる。柚子を浮かべたり入浴剤を利用して季節や香りなどを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間に合わせた就寝介助の順番など工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の重要性、重大性を確認し、与薬、体調変化に		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクリエーションとして、洗濯たたみななどご各々できることを行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候を考慮した上で、散歩やお買い物など実施している。	散歩は近くの公園まで出かけることもあるが、事業所周辺を周回する短い散歩が主となっている。近所のドラッグストアへ買い物にでかける利用者もいる。天候や職員配置など条件の許す限り散歩を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は紛失した場合の責任問題もあり、原則所持していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は各々電話されたり、わからない時は一緒にしたり、その他の方は事務所の電話でお話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員各自が気付いた点で配慮し、工夫を凝らして実施している。	新築でもあり明るくきれいなリビングで、廊下は広い。対面キッチンからは利用者の様子も見守ることができる。ラジオ体操・みんなの体操などを毎日行い、牛乳パック製の積木を積み上げたりかるた遊びなどを楽しむ。利用者は皆歌を好み、恒例の音楽療法も含め皆で歌って楽しんでいる。大型の空気清浄機が稼働している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになりたい時など居室に入出入りすることは自由にしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真など広さの許す限り自由に置いてもらっている。	居室にはベッド・エアコン・カーテン・照明器具・クローゼットが共通に設えられている。衣装ケースや写真以外の持ち込みは少なく、車椅子のためのスペースを広くとるようにしている。リビングで皆とテレビを見たり、自室で休んだり、各自のペースで過ごしている。清掃は週2回リネン交換時に行い、居室担当の職員は衣替えなどを担当している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が良く分かるように目立つように工夫している。		